８　都立高等学校の入試について　Q&A

Ｑ１　都立高校には様々なタイプの学校があるようですが、各学校の特色を知るにはどうしたらよいですか。

Ａ１　実際に各学校へ出かけてみるとよいでしょう。 各学校はその特色や魅力を皆さんに伝えるため、学校訪問を受け付けたり、授業公開、体験入学を実施したりしています。また、文化祭や体育祭等の見学もできます。実施日などについては、７月に東京都教育委員会のホームページに掲載する予定です。

また、１０月下旬から１１月上旬までにかけて都立高等学校等合同説明会を開催します。各学校のコーナーで、担当の先生に直接相談することや、学校案内などの資料を入手することができるようになっています（東京都教育委員会のホームページの URL 及び都立高等学校等合同説明会の会場等は、この冊子の裏表紙で確認してください。）。

Ｑ２　どのような人が推薦入試に応募できますか。

Ａ２　平成２８年１２月３１日現在、都内在住で、都内の中学校に在学していて、入学後も引き続き都内に在住し、平成２９年３月に都内の中学校を卒業する見込みで、志願する都立高校を第一志望とする生徒が応募できます。

一般推薦は、在学している中学校長から推薦するにふさわしいと認められた生徒が応募できます。また、文化・スポーツ等特別推薦は、実施する高校が定めた基準に該当し、在学している中学校長から推薦するにふさわしいと認められた生徒が応募できます。

Ｑ３　文化・スポーツ等特別推薦とはどのような推薦入試ですか。

Ａ３　皆さんが今までつちかってきた優れた能力を評価して一層伸長するとともに、各学校の個性化や特色化を推進するための入試です。

平成２９年度入試で文化・スポーツ等特別推薦を実施する高校は、自校の教育活動等の特色に合わせて募集する種目や募集人数、検査内容を定め、９月中旬に発表します。また、選考の際は、個人面接又は集団面接、実技検査、小論文又は作文などの各点数を基に、各学校で定めた各種目の基準に達している受検生の中から、合格者を決定します。

平成２８年度入試では、９２校で実施しました。

なお、この特別推薦と同時に、同一校の一般推薦にも出願することができます。

Ｑ４　推薦入試で必ず実施される、個人面接について教えてください。

Ａ４　個人面接では、出願の動機・理由、興味・関心、高校生活に対する意欲、適性、規範意識・生活態度や自己ＰＲカードの記載内容、中学校における様々な活動の状況及び将来の進路希望などを確かめたり、質問の内容を的確に把握し適切に応答する能力や表現力などを評価したりします。また、これまでの経験を今後の高校生活に生かすことができる力があるかなどを確認します。

Ｑ５　推薦入試では個人面接だけでなく集団討論も必ず実施するということですが、集団討論について教えてください。

Ａ５　集団討論では、コミュニケーション能力や協調性、思考力・判断力・表現力などを評価します。与えられたテーマについて自分の考えを明確に述べることができるか、複数名の受検生同士が協力して一つのテーマに関して議論を進めて、結論を導くことができるかなどを確認します。

学級活動の時間に話し合いをしたことや、国語などの教科の授業の時間に皆で意見交換をしたことがあると思いますが、そのような経験を生かし、「自分自身の考え・意見をしっかりともつこと」、「相手の考えを理解した上で、自分の考えを的確に相手に伝えること」などを意識して臨んでください。

Ｑ６　推薦入試で実施される集団討論は、どのような形態で行われるのですか。

Ａ６　集団討論の形態には、「面接官が司会役となって議論を進めていく形」や「受検生だけで自主的に議論を進めていく形」があります。どの形態で行うかは、各学校が受検生の状況などを踏まえて決めることになります。

Ｑ７　推薦入試で合格できなかった都立高校を、学力検査に基づく入試で再度受検できますか。

Ａ７　受検できます。ただし、推薦入試と同じ学校を受検しても有利になるということはありません。また、他の都立高校に出願し、受検することもできます。

なお、都立高校ではいずれかの入試（推薦、第一次募集・分割前期募集、分割後期募集・第二次募集）の合格者は、それ以降に行われる入試には出願できません。

Ｑ８　平成２７年４月に国際高校に設置された国際バカロレアコースには、どのような人が応募できますか。また、どのような検査を実施するのですか。

Ａ８　中学校を卒業する見込みの人、中学校を卒業した人、海外帰国生徒及び在京外国人生徒で、国際高校の国際バカロレアコースを第一志望とする生徒が応募できます。推薦入試と同じ日に検査を実施するので、他の高校（国際高校を含む。）の推薦入試に出願することはできません。

英語運用能力検査、小論文、個人面接及び集団討論などの検査を実施します。

なお、英語運用能力検査以外の検査では、出願時に、検査ごとに使用する言語を日本語又は英語から選ぶことができます。どちらを選んでも、有利・不利はありません。

詳しくは、１１月上旬に発行予定の「平成２９年度東京都立高等学校募集案内」で確認してください。

また、国際バカロレアコースの詳しい内容等については、国際高校にお問い合わせください。
（国際高校ホームページ　http://www.kokusai-h.metro.tokyo.jp/HPmaster/index.htm）

Ｑ９　入学願書はどのように入手するのですか。

Ａ９　「推薦に基づく入試用の入学願書」及び「学力検査に基づく入試（第一次募集・分割前期募集及び分割後期募集・第二次募集）用の入学願書」については、都内公立中学校に在学している方には、在学する中学校で配布します。それ以外の方は、各都立高校、東京都教育相談センター、都庁内にある都立高校入試相談コーナーで配布します。入学願書の配布時期は、１２月上旬頃からとなります。

なお、以下の学校を受検する場合については、各校独自の入学願書となりますので、各学校にお問い合わせください。

・次の昼夜間定時制高校
一橋高校、浅草高校、新宿山吹高校及び荻窪高校
＊　砂川高校及び八王子拓真高校は都立高校共通の入学願書を使用しますが、記入の仕方については直接各学校にお問い合わせください。

・チャレンジスクール
六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、稔ヶ丘高校及び桐ヶ丘高校

・通信制課程の高校
一橋高校、新宿山吹高校及び砂川高校

・海外帰国生徒対象の高校
三田高校、竹早高校、日野台高校及び国際高校
＊　海外帰国生徒対象の募集では各校独自の入学願書を使用しますが、一般入試では都立高校共通の入学願書を使用します。

・引揚生徒対象の高校
深川高校、光丘高校、足立東高校及び富士森高校

・在京外国人生徒対象の高校
竹台高校、田柄高校（普通科、外国文化コース）、南葛飾高校、飛鳥高校及び国際高校

・国際バカロレアコース
国際高校

Ｑ１０　入学願書を提出した後、志望校の変更はできますか。

Ａ１０　推薦入試では、志望校を変更することは一切できません。

学力検査に基づく入試では、全日制高校で志望校の変更（取下げ及び再提出）ができます。定時制高校では志望校の変更はできません。ただし、定時制高校のうち、六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、稔ヶ丘高校、桐ヶ丘高校、一橋高校、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校及び砂川高校の各昼夜間定時制高校においては志望校の変更ができます。

なお、定時制高校の第二次募集では志望校の変更ができます。

詳しくは、１１月上旬に発行予定の「平成２９年度東京都立高等学校募集案内」で確認してください。

Ｑ１１　全日制課程の第一次募集・分割前期募集において、原則全ての都立高校で、国語、数学、英語、社会、理科の５教科の学力検査を実施するのはなぜですか。

Ａ１１　中学校教育と高校教育の接続の役割をになう入試で、皆さんが中学校３年間で身に付けてきた各教科の学力をしっかりみるためです。

これらの学力が、高校における学習の基盤となります。

Ｑ１２　全日制課程の第一次募集・分割前期募集で、学力検査の得点と調査書点の比率を原則全校で７：３とするのはなぜですか。

Ａ１２　中学校３年間の学習内容を出題範囲とする学力検査と、中学３年生の日常の学習状況を評価する調査書を用いて、皆さんの学力をバランスよく評価するためです。

Ｑ１３　学力検査を５教科実施した場合に、実技４教科の評定を２倍して調査書点を算出するのはなぜですか。

Ａ１３　学校では、皆さん一人一人の知・徳・体をバランスよく育むことが求められています。そのためには、中学校の学習活動においても９教科全てが大切です。

都立高校の入試では、中学校の９教科それぞれの授業を通して皆さんがどのような力を身に付けてきたのかを評価します。

調査書だけでしかみることのできない実技４教科で身に付けた皆さんの力も、学力検査を実施する５教科と同じように評価をするため、実技４教科の評定を２倍にします。

なお、学力検査が３教科の場合は、残りの６教科の評定を２倍して調査書点を算出することになります。

Ｑ１４　男女別定員制の緩和とはどのような選抜方法ですか。

Ａ１４　全日制普通科で男女別に募集人員を定めている都立高校で、第一次募集・分割前期募集において、男女別募集人員の各９割に相当する人員までを男女別の総合成績の順により合格者として決定し、残りの１割に相当する人員を男女合同の総合成績の順により合格者として決定する選抜方法です。平成２８年度入試では、区部２５校、市部６校、合計３１校で実施しました。

Ｑ１５　学力検査問題のグループ又は自校による作成について教えてください。

Ａ１５　全日制高校のうち以下の１５校では、第一次募集・分割前期募集において、それぞれのグループで学力検査問題を作成します。これらの学校については、グループごとに作成した問題（国語、数学、英語）と都立高校共通問題（社会、理科）で学力検査を実施します。

グループ	学校名
進学指導重点校	日比谷高校、戸山高校、青山高校、西高校、八王子東高校、立川高校、国立高校
進学重視型単位制高校	新宿高校、墨田川高校、国分寺高校
併設型高校（中高一貫教育校）	白鷗高校、両国高校、富士高校、大泉高校、武蔵高校

なお、国際高校については、英語の学力検査問題のみを自校で作成しています。また、一部の定時制高校でも、自校で作成した問題により入試を行っています。

Ｑ１６　島しょの中学校から、島しょ以外の都立高校に応募できますか。

Ａ１６　入学日までに、保護者に代わる島しょ以外の都内に在住の身元引受人（成人の親族等）のもとに転居することが確実な場合には、島しょ以外の都立高校に応募することができます。
　なお、身元引受人には学生寮等の寮長も含みます。

Ｑ１７　島しょ以外の中学校から、島しょの都立高校に応募できますか。

Ａ１７　入学日までに、家族全員で島しょに転住（一家転住）するか、保護者に代わる島しょに在住の身元引受人（成人の親族）のもとに転居することが確実な場合には、島しょの都立高校に応募することができます。
　また、新たな制度として、島しょの町村が独自に実施する“ホームステイ生徒の選考”に合格した場合についても、島しょの都立高校に応募することが可能となりました（このホームステイ生徒の選考に合格した場合は、町村から身元引受人となる島しょ在住の方を紹介されます。）。平成２８年度入試においては、神津島村でホームステイ生徒の選考が行われました。
　平成２９年度入学生向けのホームステイ生徒の選考を島しょのどの町村が実施するかは、９月に公表する予定です。また、選考の詳細は、１０月に実施町村が個別に公表する予定です。
　なお、一部の島しょの町村において、入学前に島しょの自然体験活動や高校見学ができる中学生対象の島しょ体験ショートステイを実施します。募集の詳細は東京都教育委員会ホームページで公表しています。

Ｑ１８　中学校を卒業後、都外へ引っ越すことが決まっていますが、全日制高校に応募できますか。

Ａ１８　応募することはできません。全日制高校への応募は、都内に保護者（本人に対し親権を行う者であって、原則として父母）と同居し、入学後も引き続き都内から通学することが確実であることが条件です。
　中学校を卒業後、都外へ引っ越すことが決まっていて公立高校の受検を希望する場合は、引っ越し先の道府県の公立高校に応募することになります。
　なお、定時制高校へは、志願者が都内に住所又は勤務先があれば応募することができます。

Ｑ１９　現在都外に住んでいますが、全日制高校に応募できますか。

Ａ１９　入学日までに家族全員で都内に転入すること（一家転住）が確実な場合には、Ａ１８の条件を満たせば、定時制を含め、どの都立高校にも応募することができます。ただし、一時的に都内に転入することがあっても、入学後再び都外に、志願者、保護者又は志願者と保護者が転居する予定のある場合には、応募することはできません。

Ｑ２０　現在、一家で都外に住んでおり、母と共に都内に転入（父は単身赴任で別居（都外））する予定ですが、全日制高校に応募できますか。

Ａ２０　父母が共に保護者である場合は、家族全員で都内に転入しなければ、応募することはできません。
　全日制高校への応募は、都内に保護者（本人に対し親権を行う者であって、原則として父母）と同居し、入学後も引き続き都内から通学することが確実であることが条件になります。

Ｑ２１　現在海外に住んでいますが、都立高校に応募できますか。

Ａ２１　日本人学校（在外教育施設）や現地の学校などに通っている生徒については、Ａ１８の条件を満たせば、どの都立高校にも応募することができます。また、三田高校、竹早高校、日野台高校及び国際高校では、一定の応募資格の下、海外帰国生徒等対象の入試（４月入学・９月入学）を実施しています。

詳しくは各学校又は裏表紙に記載してある都立高校入試相談コーナーにお問い合わせください。

Ｑ２２　障害のある志願者が受検する場合、どのような制度がありますか。

Ａ２２　学力検査、小論文又は作文、面接等において、検査方法、検査時間及び検査会場等についての特別な措置を申請することが可能です。志願者の障害の特性等を考慮した上で、問題用紙・解答用紙の拡大、英語リスニングテストでの座席の配慮、別室受検、検査時間の延長、記号選択式での受検、ＩＣＴ機器の使用などが認められます。

申請は、在学する中学校を通して行うこととなりますので、詳しくは、中学校の先生にお尋ねください（現在中学校に在学していない場合は、裏表紙に記載してある都立高校入試相談コーナーにお問い合わせください。）。

Ｑ２３　外国籍ですが、都立高校に応募できますか。

Ａ２３　Ａ１８の条件を満たせば、どの都立高校にも応募することができます。入国後３年以内の外国籍の生徒は、志願する高校が都立高校共通問題で学力検査を実施する場合は、申請によりひらがなのルビ（ふりがな）を振った学力検査問題（共通問題）、又はひらがなのルビ（ふりがな）を振った学力検査問題（共通問題）に加えて辞書の持込み及び学力検査時間の延長での受検が可能となります。ただし、国語の学力検査では辞書の持込み及び学力検査時間の延長はありません。

また、竹台高校、田柄高校（普通科、外国文化コース）、南葛飾高校、飛鳥高校及び国際高校では、一定の応募資格の下、在京外国人生徒対象の入試（４月入学・９月入学）を実施しています。ただし、国際高校以外の４校のいずれかの高校に合格した場合は、入学手続を行っていなくても、後日検査を実施する国際高校に応募することはできません。

詳しくは、各学校又は裏表紙に記載してある都立高校入試相談コーナーにお問い合わせください。

Ｑ２４　中学校での欠席が多い場合、欠席の事情を都立高校に説明できると聞きましたが、どのような方法がありますか。

Ａ２４　都立高校に応募する際、「自己申告書」を提出し、欠席日数について事情を説明することができます。「自己申告書」の用紙は、都立高校等の窓口で配布します。中学校からの配布を希望する場合は、中学校の先生に相談してください。

自己申告書は、志願者及び保護者が記入し、厳封して、入学願書等の出願書類と共に志願する都立高校に提出することになります。

Ｑ２５　合格発表後、学力検査における自分自身の答案を見たい場合は、どうすればいいですか。

Ａ２５　合格発表日以降、開示請求書を受検した高校に提出し、本人確認ができるもの（受検票や身分証明書など）を提示することにより、学力検査における答案の写しを受けとることができます。詳しくは中学校の先生に相談してください。

※　答案の開示は、採点誤りにより不合格となった受検生の救済を目的として導入した制度です。そのため、事務手続きを円滑に進める観点から、合格となった場合、３月中の開示請求はできるだけ御遠慮ください。